Case Study

株式会社 博報堂アイ・スタジオ

Adobe Creative Cloud エンタープライズ版導入事例

マネージドサービスにより、セキュリティの強化と制作の効率化を同時に実現

HAKUHODO i-studio

株式会社 博報堂アイ・スタジオ

博報堂DYグループのデジタルクリエイティブ制作会社である株式会社 博報堂アイ・スタジオ。クライアント企業のWebサイト、プロモーションサイト、キャンペーンサイトの企画制作・コンサルティング、スマートフォンアプリの開発、それに伴うシステム開発、公開後のPDCAマネジメントまで、インタラクティブコミュニケーション領域全般のソリューションをワンストップで提供している。また、Web制作に留まらず、マルチタッチポイントでの統合的なデジタルマーケティング全般をプロデュースしている。

株式会社 博報堂アイ・スタジオ
経営企画部
粕谷 剛 氏

株式会社 博報堂アイ・スタジオ
統合デジタルマーケティング4部 副部長
インタラクティブディレクター
アートディレクター
笹垣 洋介 氏

クラウド技術の急速な発展、そしてデジタルデバイスの多様化に伴い、ここ数年で企業が扱うコンテンツやアセットの量は爆発的に増大している。その一方で、制作のスピードは以前にも増して素早い対応が求められようになった。今、クリエイティブに関わる多くの企業が、こうした状況に対応するための環境づくりやワークフローの改善に追われている。博報堂DYグループの中で様々なデジタルコンテンツの制作に携わる株式会社 博報堂アイ・スタジオ（以下、博報堂アイ・スタジオ）も、デジタル業界の最先端をリードし、生活者の心とカラダを動かすクリエイティブを提供する上で、まさにそうした課題に直面していた。

同社では、多くのクライアント企業の機密情報を扱うことから、徹底したセキュリティ管理の下で業務が行われている。そのため、制作効率を上げるはずのクラウドサービスが利用できないというジレンマに陥っていた。セキュリティを維持しながら、最新のクラウド技術を自由に使える制作環境を実現したい。そうした同社の要望に応えたのが、Adobe Creative Cloud エンタープライズ版 マネージドサービスだった。

■ Creative Cloud エンタープライズ版導入の背景と課題

- **セキュリティ要件によるクラウド利用の制限**

  博報堂アイ・スタジオでは、以前より制作業務の主要ツールとしてCreative Cloudを活用してきた。PhotoshopやIllustratorを始めとするデスクトップアプリケーションを自由にダウンロードして使用できる環境が整備された一方で、クライアントから預かる機密情報には細心の注意が払われており、制作途上にあるコンテンツやアセットの管理に関しても、厳しいセキュリティポリシーが適用されている。そのため、外部サーバーや一般回線を利用するようなクラウドサービスやモバイルアプリの使用は禁じられていた。つまり、制作の現場ではデスクトップアプリケーションを使用するためだけに、Creative Cloudを利用するしかなかった。

  「ここ数年で、Creative Cloudがよりクラウドセントリックなものに変貌しました。弊社でも、スマートフォンやタブレットといったモバイル機器を業務に活用したいという要望が、現場からも多く上がっていました。もちろんそうした流れに乗りたかったけれど、博報堂DYグループのセキュリティ要件からいくと、Creative Cloudに限らず様々なツールにおいてクラウドの機能は使わせられないというジレンマがありました。セキュリティが、制作効率の足かせになってはならない、そこをどうしても解決したかった」と、経営企画部として同社のあらゆる業務の見直しに取り組んでいる粕谷剛氏は話す。

- **アセットの個別管理が招く様々な課題**

  博報堂アイ・スタジオが抱えていた課題として、アセットの管理があった。同社が管理するコンテンツやアセットの量は年々増加する一方で、そうした業務用ファイルを格納するサーバーの容量は、ファイルを格納するサーバーの容量も年々膨らんでいる。そのため、目的の素材を見つけるのに時間がかかり、どれが最新のバージョンなのかわからなくなることも多々あった。そうなると必然的に、素材のマスターファイルを個々のPCで独自に管理するようになる。

  「様々なデータが個々のPCに分散することで、多くの課題が顕在化していました。たとえば、素材に変更があった場合に一部は更新されているが、一部では更新されていなかったり。あるいは、レンタルポジを購入したのを知らず、重複して購入してしまうということもありました。そうしたトラブルが起こらないよう最大限の注意を払ってはいたものの、みんなで声をかけあって気をつけようというやり方しかありませんでした」と、同社の制作現場でディレクションを務める笹垣洋介氏は話す。

- **厳しい要件を満たすマネージドサービス**

  こうした課題を解決すべく、経営企画部では様々な施策が練られた。しかし、博報堂DYグループの極めて厳しい要件を満たすソリューションを見つけ出すことは、けっして容易なことでなかった。取り組みからすでに2年近くが経過していた。そうした中、アドビから思いがけない提案があった。それが、Creative Cloud エンタープライズ版 マネージドサービスである。マネージドサービスは、従来のマルチテナント型ではなく、ファイアウォール内のシングルテナントサーバーを利用でき、VPN接続にも対応する。サーバーに保存されるコンテンツやアセットは、高水準の暗号化によって保護される。

株式会社 博報堂アイ・スタジオ
テクノロジーソリューション本部
クリエイティブテクノロジー部
テクニカルディレクター
高野 祥宏 氏

導入製品

- Adobe Creative Cloud エンタープライズ版 マネージドサービス
- Adobe Stock エンタープライズ版

「私たちの要件をすべて満たすものが、突然目の前に現れたという感じでしたね。当初私たちがやろうとしていた方法とはまったく違ったが、それ以上のことが実現できることもわかり、とても興奮した覚えがあります」（粕谷氏）

■ 導入後の成果

- **アセット管理の効率化**

博報堂アイ・スタジオでは、Creative Cloud エンタープライズ版 マネージドサービスのテスト導入として、パイロットプログラムをスタートさせた。アドビの強力なサポートのもと、セキュリティ、管理、制作効率といったあらゆる角度から検証を重ね、数ヶ月でほぼ狙い通りの効果が出るようになった。

「（Creative Cloud Librariesによって）アセットの管理が非常に楽になりますね。これまでは個々で素材を管理し、カスタマイズしたりしていたので、ディレクターはとても管理しきれなかった。今後は、案件ごとに決められたライブラリを用意して、そこに使うべき素材をまとめておけるので、ワークフローとして健全だし、効率的だと思う。素材のバージョンに気を使う必要もなくなります。様々なクライアントの、様々な案件を同じ環境でやるのではなく、その都度切り替えるのが新しいやり方。ライブラリを切り替えるだけでそれが実現できるのは、すごく大きい」（笹垣氏）

- **デザインと開発のスムーズな連携**

Creative Cloud エンタープライズ版 マネージドサービスの導入により、これまで使用できなかったクラウドの機能やサービス、そしてモバイルアプリの使用が可能になる。それはプロジェクトチーム内の共同作業にも大きなメリットをもたらすことになる。

「私はエンジニア職なので、デザインデータを直接触ることはないのですが、素材に変更があるたびに、デザイナーからデータをもらい、それに差し替えるという作業を繰り返していました。ライブラリで素材を共有することで更新が自動化され、そうした手間がなくなり、ミスも軽減できます。また、Photoshopで作成したデザインをモバイルアプリ（Preview CC）ですぐに確認できるのが、とても役立っています。それまではjpgに書き出して、それをサーバーにアップして、URLを入力して確認という時間のかかるフローでしたが、その時間を他の作業に充てることができるようになり、全体の作業が大幅に効率化できます」（高野氏）

- **大幅な導入コストの削減**

今回の導入において、コストの面ではどのくらいのメリットがあったのか。粕谷氏はこう話す。

「当初は別のやり方を考えていたわけですが、もしそれらを1つ1つ実現していくとなると、どのくらいのコストがかかるのかは正直想像がつきません。モバイルデバイスの利用だけ考えても、VPN対応や、デバイスのセキュリティ監視ツール、MDM（モバイルデバイスマネジメント）などを含めると、相当なコストが発生していたはずです。さらに、デスクトップからもクラウド機能の利用が可能になったことを考えると、マネージドサービスの費用対効果は、今の時点でも明らか高いと言えます」

■ 今後の取り組み・展望

半年のパイロット期間が終了し、いよいよ本番導入が開始された。移行もスムーズに行われたという。認証システムはEnterprise IDに統一され、すべてのライセンスはAdobe Enterprise Dashboardによって一元管理される。パイロットプログラムで得た経験とノウハウがあるため、すぐに実際のワークフローの中で利用し始めることが可能だったという。

マネージドサービスの導入により、極めてセキュアな環境で、クラウドサービスやモバイルアプリの利用が可能となった今、博報堂アイ・スタジオでは新たなワークフローの変革に取り組み始めている。

「クリエイティブに関わる人が作るもののレベルは、技術の進歩とともにどんどん上がっています。私たちがクリエイティブのど真ん中で他とどう差別化していくかは、正確さ、品質、スピード、あるいはバリエーションの多さだったりします。そのコアになるものはアイディアであって、それを実現するためにクリエイティブの力が必要です。スピードが遅くなること、二度手間になるようなこと、ほんの些細なことでも集めれば大きな時間の無駄になる。そうしたクリエイティブの足かせになるような無駄を、できるだけ現場から取り除きたいという思いがあります。今回のマネージドサービスの導入によって、Creative Cloud本来の機能をフルに活かせるようになった。また、ストックフォトサービスのAdobe Stock エンタープライズ版導入と合わせてクリエイティブワークがどのように変わっていくか、非常に楽しみです」（粕谷氏）

製品に関する詳細

www.adobe.com/jp/creativecloud/

Adobe

アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

※掲載された情報は2016年6月現在のもです。

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Illustrator, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated,in the United States and/or other countries.
© 2016 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.